

2013年10月4日

福祉現場で役立つ高次脳機能障害研修会

# 利用者どうしが育ち合う 地域の居場所づくり

NPO法人VIVID(ヴィヴィ)

2013年10月4日 池田敦子

# NPO法人VIVIDの概要

- 設立：2007年7月、「高次脳機能障害者とともに」を目的に法人設立。新宿区で活動開始。
- 日本社会事業大学専門職大学院2期生・4期生を中心に設立し、2008年にメンバーの脳卒中体験レポート「あっち側から見たこっち側」を出版。
- 2008年新宿区協働事業提案制度に「高次脳機能障害者の支援事業」を応募、採択され2009年4月から①居場所づくり・②なんでも相談・③セミナーの3事業をスタート。
- 2011年度から、区の委託事業となり、事業継続中。

# 高次脳機能障害者の居場所づくり



## VIVIDミニデイサービス

### 運 営

- 
- ・毎月第2、第4土曜日、開催
- 
- ・10時30分受付、11:00～15:00
- 
- ・昼食は、弁当を配達してもらう(実費)  
3種類の中から、自分で選ぶ
- 
- ・開催場所は、近隣の社会福祉法人の  
地域交流スペース(開催日のみ借用)
-

# 対象者

---

新宿区在住・在勤の高次脳機能障害者と家族。

区外の方はVIVID会員とさせていただきます。

---

原則としてご自身またはご家族の介助で  
会場にいらっしゃれる方。

---

家族と一緒に参加することを基本とします。

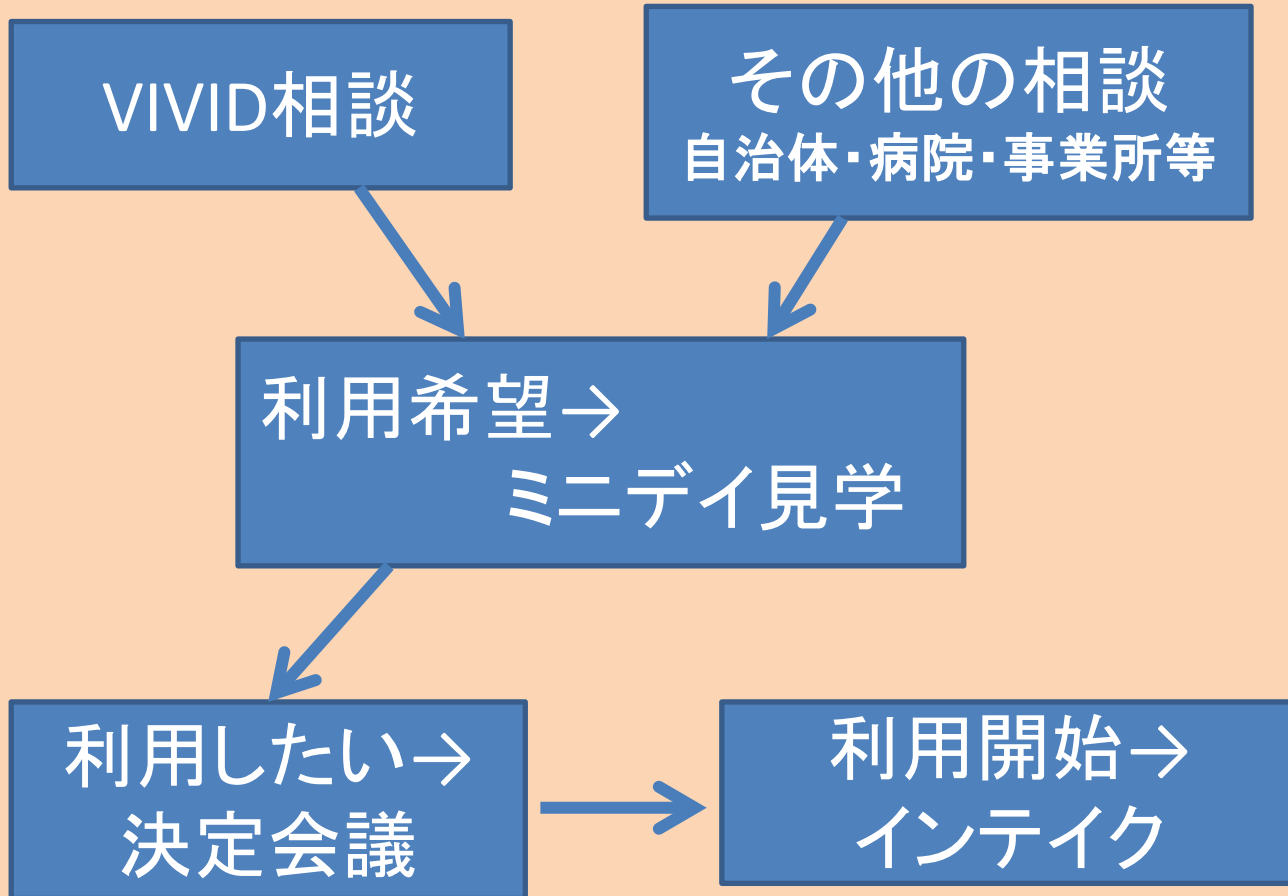
ご利用相談と初回利用以外は、一人での参加を認める場合があります。

---

障害手帳の有無・通院の有無を問いません。

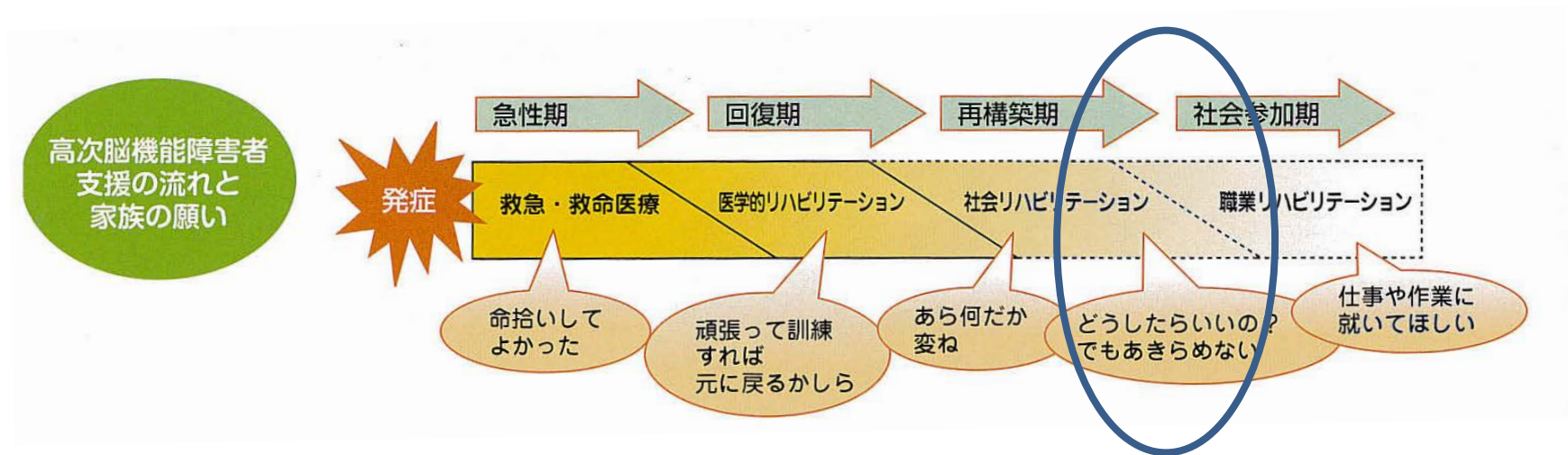
---

# 利用までの流れ



# ミニデイサービスが支援できる時期

このあたり...



出展：東京都心身障害者福祉センター「高次脳機能障害の理解と支援の充実をめざして」

# 支援の目標のイメージ

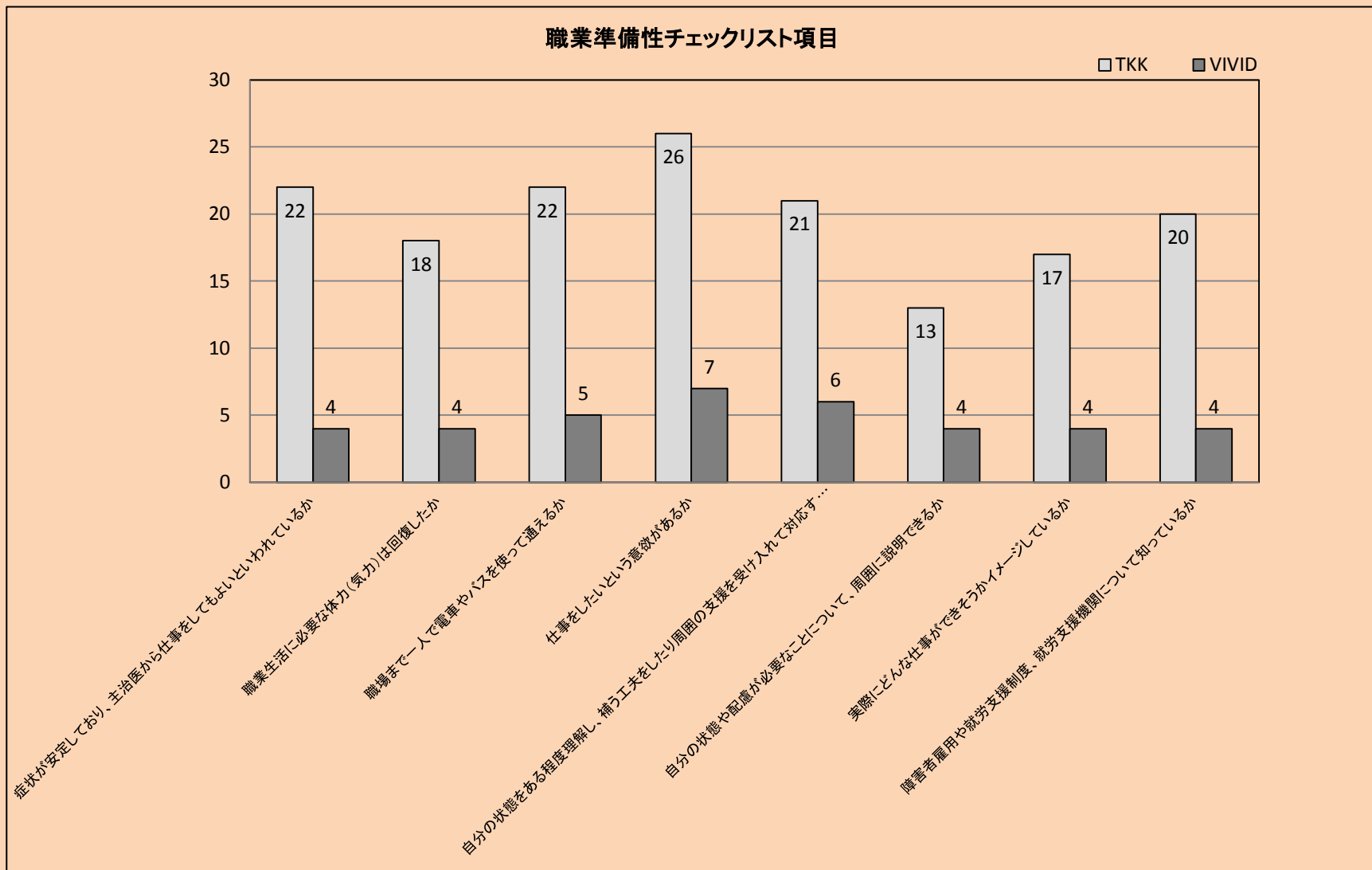
## 高次脳機能障害者の職業準備性チェックリスト

(東京都心身障害者福祉センター参考資料)

- |   |
|---|
| ①症状が安定しており、主治医から仕事をしてもらいといわれているか              |
| ②職業生活に必要な体力(気力)は回復したか                         |
| ③職場まで一人で電車やバスを使って通えるか                         |
| ④仕事をしたいという意欲があるか                              |
| ⑤自分の状態をある程度理解し、補う工夫をしたり周囲の支援を受け入れて対応することができるか |
| ⑥自分の状態や配慮が必要なことについて周囲に説明できるか                  |
| ⑦実際にどんな仕事ができそうかイメージしているか                      |
| ⑧障害者雇用や就労支援制度、就労支援機関について知っているか                |

# VIVID利用者の職業準備性チェック結果

「高次脳機能障害者の社会参加に関するアンケート調査結果」(2011. 3.VIVID)





## Q. 就業就労に関してどんな問題・課題があると感じていますか？「高次脳機能障害者の社会参加に関するアンケート調査結果」 (2011. 3.VIVID)

- ・疲れるといろんな症状が出るため、自分のコントロール・体力・気力・仕事を確認しながらする。メモを取る。
- ・自分の状況を担当者になかなか上手く説明することが難しい。  
(自分では理解しているのに)
- ・思いこみや、行動や理解がワンテンポ遅れるために起こるトラブルに対して一人で解決が難しい。
- ・認知能力が低下している。言葉を使わないので語彙が不足となり、しゃべれない。コミュニケーション力。
- ・与えられた仕事を完成するのに時間がかかり過ぎと注意される事が多い。
- ・体力面の向上と社会経験が乏しいので臨機応変ができにくい。

# 目 標

VIVIDミニデイは、3つの目標をもって、ご利用者の参加でプログラムを創り、一緒に実践します

1. 自分の心と体の状況を知る
2. 自分のことを自分で決めて行動できるようになる
3. 家族と本人がよい関係を築くようになる

## 2つのプログラム

**本人  
プログラム**

自立した関係を  
築く



**家族は  
身近な支援者**

**家族  
プログラム**

2013年度 本人プログラム	月	2013年度 家族プログラム
ミニデイ会場の『環境整備』 音楽セラピー／「健康セルフチェック」	4	オリエンテーリング 「健康セルフチェックについて」
外出／認知リハビリ	5	外出／「認知リハについて」
心と体を自由にする「朗読劇」 音楽セラピー／折り紙	6	「高次脳機能障害・生活上の我が家の工夫」
認知リハビリ／大人になるってどういうこと「今の自分、こうなりたい自分」	7	「大人になるってどういうこと」
音楽セラピー／折り紙	8	
「今の自分、こうなりたい自分」の発表 朗読劇練習	9	「今の自分、こうなりたい自分」の発表 を聞く/感想・意見交換
外出 音楽セラピー／折り紙	10	「一人ぐらしの生活を知る」 ★DVD鑑賞後、意見交換
朗読劇練習／折り紙／調理	11	(一人暮らし体験者の話を聞く)
折り紙／音楽セラピー	12	「医療福祉の制度の活用に向けて」
新年会／朗読劇練習	1	
朗読劇練習／音楽セラピー	2	
朗読劇練習／認知リハ／発表会 次年度に向けて振り返り	3	★DVDはNHK福祉ビデオシリーズ 高次脳機能障害のリハビリテーション第②巻

# 本人プログラム

## 利用者概要

**男性:** 5名 (30代2名、40代2名、60代1名)

受傷の原因: 頭部外傷、脳卒中、脳腫瘍

障害者手帳: 精神、身体、知的

**女性:** 9名 (20代3名、30代4名、40代、50代)

受傷の原因: 頭部外傷、脳卒中、脳腫瘍

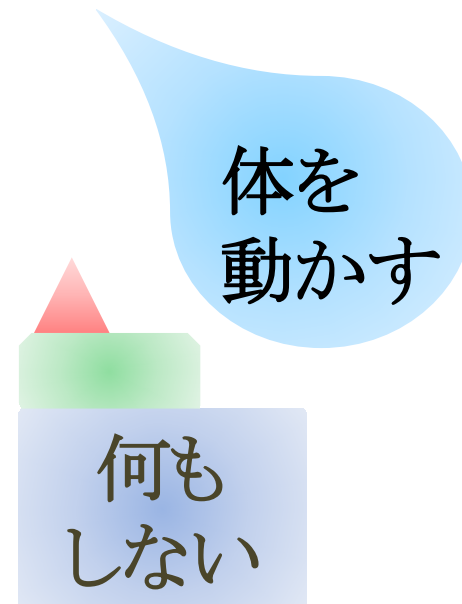
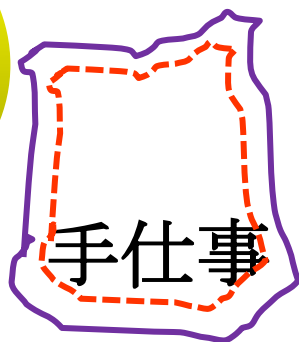
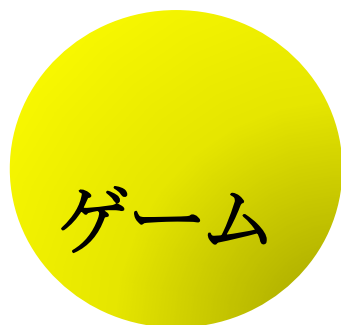
障害者手帳: 精神、身体、知的、手帳なし

(平均年齢39歳)

# 本人プログラム（居場所的アプローチ）

## 1. 好きなこと 何でも

- ・自分の したい事を選ぶ
- ・自分の時間の過ごし方を決めるプログラム



→必ずしも皆がみんな、  
したいことを選べていなかった

ある時、Aさんは

「折り紙のプログラムは、形が捉えられないので、  
できないとい」と言われた。

→「やれることを探しましょう」と、  
紙を丸めたり、切り紙を試したり・・・

でも、したいことではなかった。

→粘土をさわった時、  
「粘土は最悪。リハビリを思い出す××・・・」と  
手にした粘土を、  
右手⇔左手でやったりとったり！

→それを見てスタッフが、粘土でキャッチボールを  
しようと提案。

それからAさんの「好きなこと何でも」は  
軟球を使って、スタッフとキャッチボールを  
楽しんでいる。

→Aさんの説明によると

「キャッチボールは、手首、肘、肩、と  
動きがだんだん伝わっていくのを感じるので、  
麻痺の手に効いてくるのがわかる○○…」

プログラム←ニーズ←選択肢←個別支援←ア  
セスメント



## <Aさんのプロフィール>

- 現在、60代・男性
- 受傷原因：もやもや病による脳出血、脳梗塞
- 障害状況：身体・左上・下肢機能障害、高次脳機能障害（注意障害・記憶障害・遂行機能障害・失認）、他に失読状態（文字は書けるが読めない、自分で書いた字が読めないなど）
- 通院リハビリの後、パソコン操作など可能となってきた。

# 本人プログラム(育ち合う関係の芽生え)

## 2. 朗読劇

「心と体を自由にする」プログラム  
イマジネーションを豊かにしたり、  
思いっきり声を飛ばしたりと、  
様々な角度から心と体にいい影響をもたらす  
俳優のためのトレーニング  
「シアターゲーム」を取り入れた。

→ゲームだけでは飽き足らず、易しい本の朗読を取り入れた。

→どうせやるならお客に聞いてもらおう！

→通年プログラムで、朗読劇の練習を始めた。

→「あらしのよるに」を台本に、

朗読劇をメンバー全員の

自らの意思表示による参加で、年度末の発表会で上演することを決めた。

## プログラムのねらいは、

リハビリ的要素ではなく、

あくまでも心と体を今までより少し自由にして  
このプログラムを楽しむことにより、「新たな何かを自分の中、生活の中に発見する」こと。

それは

- ・達成感（ひとつのものを皆の力で仕上げていく）
  - ・一体感（共に作り上げていくプロセスを楽しむ）
- を経験してもらうこと。

## 練習の目標

- ①上手にできることを目標とせず、一人ひとりが自分の役割をしっかりと務める。
- ②五感と体、言葉と音等による総合的な表現を体験する。
- ③自分の表現方法を見つける。
- ④1回で完結するのではなく、継続して練習するプロセスで生まれる変化を、その時々成果とする。

## 実際練習を始めてみると、

思いがけず積極的な参加になった。

- ・やりたい役を全員が宣言し、希望に沿ってその役が当るように、台本を区切り、ダブルキャストにした。
- ・読みが苦手なメンバーは効果音や歌などに参加してもらい、結果として全員に関わってもらうという流れになった。
- ・練習が進むと、読みを家で家族と練習してきたり、アニメを借りて、画像を見てイメージを膨らませたりして参加するように変化した。
- ・遠巻きに眺めていたメンバーが積極的に参加意思を表明してきた。

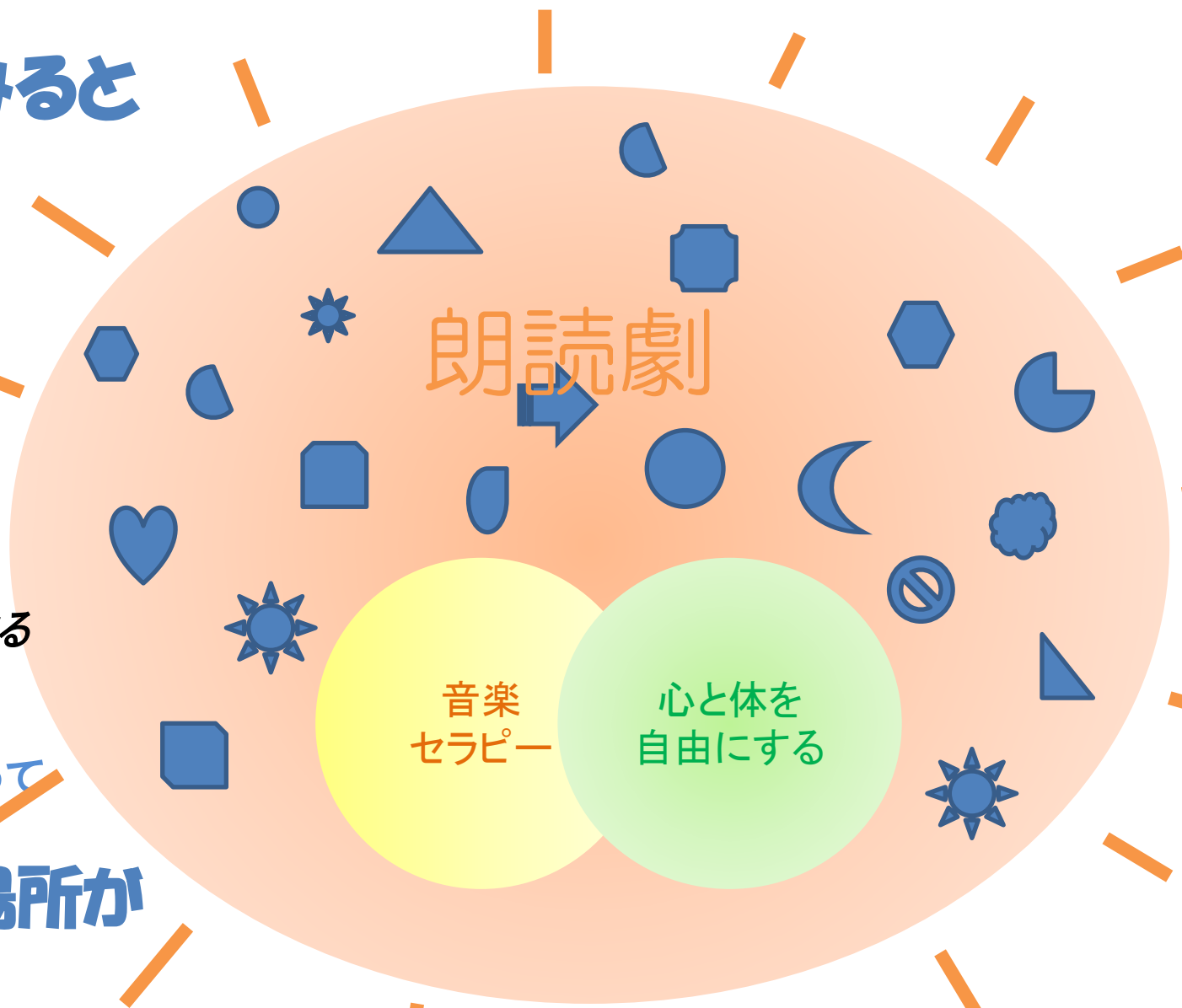
# 終わってみると

- ・役を選ぶ
- ・張り合う
- ・台本を  
忘れない
- ・時間を守る
- ・出番を  
間違えない
- ・間違えたら  
教え合う
- ・本番の準備をする

などなど  
できるようになって

自分の居場所が  
できた

アンサンブルができていた



朗読劇

音楽  
セラピー

心と体を  
自由にする

## 朗読劇＝グループ活動の社会的要素

- **自己決定**：読みたい台本、演りたい役を決める。
- **場を読む**：円形に座り、互いの顔が見える。  
互いを意識し、自分の出番をしっかりと務める。
- **全体把握**：結果的に台本は、初めから終わりまで目を通すので、話しの流れがわかる。
- **イメージづくり**：理解が深まると行間を想像できる。  
最少の衣装・メイクで、役に成りきる。
- **一体感**：響き合う、アンサンブルの成立。
- **達成感**：観客の拍手、最後までやりきった経験。



# ミニデイ風景



5月 11日 土 曜日

受付. セルフチェック. ☕  
 リアリティオリエンテーション  
 今日の気分は?? 😊  
 交換ノート 📖  
 「相田まつ子」の世界を探検しよう!!  
 昼食  
 映画鑑賞 「最強のふたり」 泣けるエピソード♡ ← 下塚みずゆめ!!  
 お茶 今日の振り返り、次回案内  
 片付け、ゆび  
 終了 下塚みずゆめ! 元気でな〜 🍀

← 小川さん作のイラストです!

話し合いの時守って欲しい事

- この場を出た後はこの中だけで
- 人の話を批判しない
- 人の話をさげすまない

◆ 当番の仕事 ◆

- 1 10時30分に「けやき園」に来る
- 2 ホワイトボードに本日の予定を書く
- 3 午前のプログラム開始の声掛け
- 4 昼食の声掛け
- 5 テーブルを拭く
- 6 午後のプログラム開始の声掛け
- 7 お茶と振り返りの時間の声掛け
- 8 今日のミニデイ終了の声掛け  
「これで終わります」  
「これから後片づけをお願いします」
- 9 名札(利用者・家族・スタッフ)の回収

NOBLEA WVD



# 本人プログラム(自分のことを知る)

## 3. 大人になるということ

### きっかけ①

利用者の一人ぐらし体験から発見したこと。

《やってみたら、自分でできることが結構ある、  
できないことも人に聞いたり、自分の工夫で  
できることがわかった。》

→「いつの間にか大人になったね、」という  
親の感想。

## きっかけ①から、本人プログラムへ

→一人暮らし体験者が「自分たちでもっと自分のことを話そう会」をメンバーに提案…

しかし…、あまり反応がなく、支援者もうまく関われず、失敗。

→自分が日ごろ考えている事を話してもらおう場として、「大人になるということ」をテーマに、話し合いのプログラムを開始した。

→お題「今の自分、こうなりたい自分」について話してもらった。

## 話し合いで出てきた**本人の本音**

- ・働きたい。就労して、自分の収入で生活したい。
- ・家族と離れて、遠方のリハビリ病院で、3か月リハビリに励めたので、これから何かあっても**自分は頑張れると思った。**
- ・定年までの人生を終えた時、病気で倒れたが、これから、**あたらしい第2の人生**で何をしようかと楽しみにしている。
- ・親には自分は結婚する気はないと言った。  
親が年を取ったら、自分が面倒を見ようと思っ  
ている。

## きっかけ②

家族は、受傷前のような回復を希望していて、リハビリテーションに関心が高い。

→認知リハビリでは、家族がヒートアップし、良い成績を上げさせようと、手や口を出す状況になった。

→親なきあと問題に、

現実感を持っていない家族が多かった。

→本人が生活に困らないように、お金さえ残せば・・・

→子どもが日ごろ考えている事を理解し、

自立した関係を築くために、「大人になるということ」  
をテーマに、家族のプログラムを開始した。

本人と家族は、別々の場で  
同じテーマのプログラムに取り組んでいる。  
先日・・・

**「今の自分、これからの自分」**について  
話したことを家族に向けて発表した。

## 発表を聞いて・・・親の感想は

- 1・親亡き後について話し合った事はなかった。
- 2・長期集中リハからは、親が期待した効果が得られず、本人はメンタルのリスクを負い失敗だと思っていたが、**本人の「頑張れた」という評価に初めて気づいた。**
- 3・お金をためても、使い方を自分で決められない事には・・・
- 4・本人は、急な問題設定に自分の考えをまとめられないので、答えられない。

5・再発のリスクを考えると、  
就労には踏み込めない。

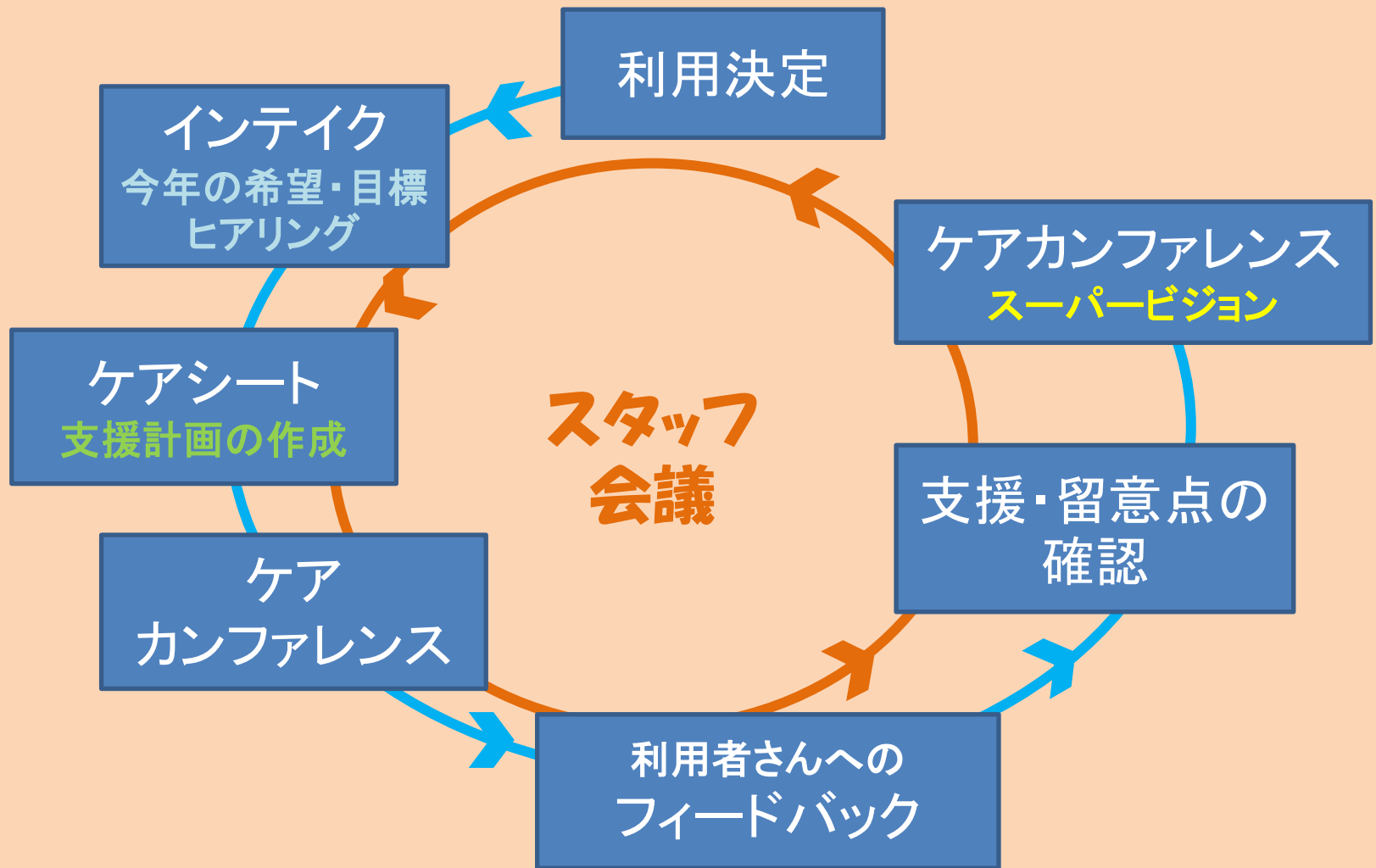
6・受傷後、ずっと失意が続いていたので、  
今の人生を肯定的に考えていることがわかって、  
ほっとした。

本人にとっては、一番答えたくない質問だと思っ  
たが、「新しい人生」と表現したことで、  
ミニデイは、きっと安心して本音を言える場なの  
だと思う。

これからもプログラムはつづく



# ミニデイのケア内容検討の流れ



# VIVIDミニテイサービス・まとめ

- 1・居場所づくりには、利用者にとって共通の体験をするプログラムが必要。  
(グループワーク)
- 2・自分のやりたいことのイメージを持つまでのコミュニケーションが必要。(個別支援)
- 3・小さな社会としての居場所が、大きな社会につながって行く。

**ご清聴ありがとうございました。**

**NPO法人VIVID**